20241013 降誕節第 22 主日・神学校日礼拝

司式:佃　　雅之
奏楽:橋本惠美子

前奏:「御神の御旨は常に行われ」（J.G.ワルター）

招詞:今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません。(ロマ8:1)

讃美歌:24「たたえよ、主の民」

交読詩編 119:81-88　（カフ）

81 わたしの魂は/あなたの救いを求めて絶え入りそうです。あなたの御言葉を待ち望みます。
82 わたしの目はあなたの仰せを待って衰えました。力づけてくださるのはいつか、と申します。
83 わたしは煙にすすけた革袋のようになっても/あなたの掟を決して忘れません。
84 あなたの僕が長らえる日々はどれほどでしょう。わたしを迫害するものに対して/いつあなたは裁きをしてくださるのでしょう。
85 傲慢な者はわたしに対して落とし穴を掘りました。彼らはあなたの律法に従わない者です。
86 あなたの戒めはすべて確かです。人々は偽りをもってわたしを迫害します。わたしをお助けください。
87 この地で人々はわたしを/絶え果てさせようとしています。どうかわたしがあなたの命令を／捨て去ることがありませんように。
88 慈しみ深く、わたしに命を得させてください。わたしはあなたの口から出た定めを守ります。

朗読聖書①マラキ書 3:19-24　♦主の日

19 見よ、その日が来る/炉のように燃える日が。高慢な者、悪を行う者は/すべてわらのようになる。到来するその日は、と万軍の主は言われる。彼らを燃え上がらせ、根も枝も残さない。
20 しかし、わが名を畏れ敬うあなたたちには/義の太陽が昇る。その翼にはいやす力がある。あなたたちは牛舎の子牛のように/躍り出て跳び回る。
21 わたしが備えているその日に/あなたたちは神に逆らう者を踏みつける。彼らは足の下で灰になる、と万軍の主は言われる。
22 わが僕モーセの教えを思い起こせ。わたしは彼に、全イスラエルのため/ホレブで掟と定めを命じておいた。
23 見よ、わたしは/大いなる恐るべき主の日が来る前に/預言者エリヤをあなたたちに遣わす。
24 彼は父の心を子に/子の心を父に向けさせる。わたしが来て、破滅をもって/この地を撃つことがないように。

朗読聖書②ルカによる福音書 9:18-27♦ペトロ、信仰を言い表す

18 イエスがひとりで祈っておられたとき、弟子たちは共にいた。そこでイエスは、「群衆は、わたしのことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。
19 弟子たちは答えた。「『洗礼者ヨハネだ』と言っています。ほかに、『エリヤだ』と言う人も、『だれか昔の預言者が生き返ったのだ』と言う人もいます。」
20 イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」ペトロが答えた。「神からのメシアです。」
♦イエス、死と復活を予告する
21 イエスは弟子たちを戒め、このことをだれにも話さないように命じて、
22 次のように言われた。「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている。」
23 それから、イエスは皆に言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。
24 自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを救うのである。
25 人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の身を滅ぼしたり、失ったりしては、何の得があろうか。
26 わたしとわたしの言葉を恥じる者は、人の子も、自分と父と聖なる天使たちとの栄光に輝いて来るときに、その者を恥じる。
27 確かに言っておく。ここに一緒にいる人々の中には、神の国を見るまでは決して死なない者がいる。」

祈　祷

天地の創造主にして全能なる生ける真の神、あなたの聖名を褒め称えます。今、私たちは聖霊降臨節第 22 主日、神学校日を覚えて、あなたの御前に集まっています。今朝、このあなたの教会で、私たちが献げます礼拝をあなたが聖別し、受け入れてくださいますようにと切に祈ります。この礼拝によってあなたの御栄光が顕され、全ての者があなたの前に、キリストの前に跪き、あなたに従う心が与えられますように導いてください。この一週間、あなたから戴きました御言葉と聖餐の恵みを糧として、夫々にあなたが示された場所で福音を大きなものとするために私たちは歩みを進めて参りました。全てあなたの導きによるものであり、また、あなたの愛と憐れみによるものでありましたことを思います。私たちがキリストの名によって成し得ることが出来ました一つひとつの事を感謝致します。

しかし、主よ、あなたへの感謝と共に、足りなかったこと、充分に果たすことが出来なかったことも数多くありました。主よ、どうか、私たちの不信仰を赦し、犯した罪をここに告白させてください。この礼拝を通して、新しく踏み出すことが出来ますように、御言葉によって私たちを全く新しい者へと造り替えてください。私たちがこの礼拝を通して永遠の命を得るに相応しい者として、あなたの御国のために生きることが出来るようにしてください。

平和の主よ、戦争が続いています。多くの人が人間の罪の犠牲になっています。この地上で人間の力ではなく、あなたの御力が振るわれますように。そのために私たちも悪に対して信仰をもって戦うことが出来ますように私たちを強めてください。今、恐れや不安に囚われている全ての人を、あなたが顧みて助け出してくださいますようにと切に祈ります。

神さま、主の名によって立てられている夫々の神学校を祝福してください。福音宣教に生涯を献げようとしている神学生たちの学びをお支え下さい。この教会からも献身の志が与えられ、必要なことを学んでいる友が居ります。学ぶ者があなたの良き働き人となるために、あなたが導いてください。

主よ、秋の教会活動を祝し、お守りください。特に、今月行われます教会修養会が御旨に適うものとなりますように。修養会での学びと分かち合いが、今年創立 100 周年を迎えたこの教会の、これからの 100 年に向けて、新たに歩み出すに相応しいものとなりますように。準備に当たっている者を、また参加する一人ひとりを、あなたが支え、励まし、実り豊かな時としてくださいますよう、お願い致します。

憐れみ深き主よ、願いつつも此処に集い得ない兄弟たち姉妹たちの上に、

あなたが必要な御言葉を以って臨んでください。励まし、導き、戒め、癒し、一人ひとりに、あなたの祝福と恵みとを豊かに注いでくださいますようにお願い致します。

主よ、今日、あなたがこの礼拝に備えてくださいました説教者を感謝致します。説教者をあなたの聖霊によって強めてください。説教者を通して、あなたご自身がお語り下さい。また聴く者をもあなたが助けてください。語られた御言葉を私たちの心に書き付けてくださいますようにお願い致します。あなたの御子イエス・キリストの聖名によって祈ります。アーメン。

讃美歌:16「われらの主こそは」

講壇「主の御力」　　鮎川 健一

10 月の新たな歩みが進んでおりますが、様々に心憂う思いのする日々でもあります。それでも再び、新たな歩みが与えられた今朝、主によって生かされている恵みに信仰をもって感謝するものです。現実問題として私たちは、生活を脅かすカルト宗教やうわさ話、人の企てに翻弄される社会にあります。その中から私たちはキリストに招かれた者として、殊に信仰者たるべく各自の心の内にある信仰を見つめ直し、主に従いゆく志を新たに、秋の伝道戦線へと進み出で行くものです。

引き続きルカ福音書から聞きますが、今朝は、弟子のペトロは主イエスの**「あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」**との問いに、**「神からのメシアです。」**と答えました。これこそ教会の歴史を貫く**『信仰告白』**であったことを再確認します。**“イエスを、まことの神の子、救い主”**として信じ告白する。キリスト者の信仰の源流です。キリスト者は、洗礼を受けて新しく生まれ変わった者ですが、この洗礼には**『父・子・霊の三位一体の神』**に対しての信仰告白が伴います。多くの場合、教会では、受洗準備会を持ち、信仰はもちろんのこと、教会やその歴史、信徒の務めを含めた信仰生活で不可欠な心得を長きに渡って集中的に学ぶと共に、殊に日本基督教団に所属する教会では、教団の組織のことや教憲教規という規則、信仰告白の細部にも触れて確認し、求道者は一定の期間を経たのち、神と会衆の前で各自の信仰告白を言い表し、更には礼拝式において**『日本基督教団信仰告白』**を告白して洗礼を受けるに至るのが大筋です。信仰告白の中心は、**“イエスをまことの神の子、救い主、メシアと告白する”**ことです。これは信仰告白の歴史を辿れば分かることですが、今に至って世界中のキリスト教会、カトリックもプロテスタントもギリシャ正教などの東方教会も含め、全てのキリスト教会が告白していますが、これを別名**「世界信条」**または**「基本信条」**とも言います。言い換えれば**使徒信条(ニカイア信条)**ということです。ここでは三位一体の神への告白がなされていますが、元はイエス・キリストに対しての告白だけだったものです。**『使徒言行録』**における洗礼の場面が根拠にもなりますが、父なる神については当然のことであって、あえて告白する必要がなかった、ということから、そのようなかたちになりました。ユダヤ教とキリスト教の決定的な違いは**“イエスをメシアとして告白するか否か”**にあります。ユダヤ教徒は旧約の部分から経典として今にも至っていますが、キリスト教との違いは、**『キリスト告白』**が違っているからです。このキリスト告白の前後に、父なる神と聖霊なる神への告白が加わって、キリスト教会では現在の形になりました。これは**『使徒信条』**からも判りますが、キリスト告白が全体の三分の二を占めています。キリスト信仰は、実に**“イエスをキリストと信じる”**ことにあります。一般的な理解では倫理的な理解になりますが、信仰も文字面に囚われて、キリストそのものが見えなくなります。**“主を信じる”**ということは、**“救い主なるイエスを愛し信頼し、従って生きる”**ということです。

主はペトロのメシア告白、キリスト告白を受けて、**“誰にも話さないように(21 節)”**と戒められてから、ご自身の受難と復活予告を告げられました。しかし、その時いた 12 人の弟子たちは、主のこの言葉を全く理解できなかったものでした。それはルカ福音書にはありませんけれども、マルコとマタイの福音の記事には、**“主からの予告を受けてペトロが主を「いさめた」”**とあります(マタ 16:22、マコ 8:32)。**“メシアともあろう方がそんなことを言ってはいけません。そんな事があってはなりません。”**とそのように彼は言ったものです。弟子たちは、**“メシア・救い主とは終りの日には神の審判を行い、世界を造り変える力を持つ方”**として、非常に力強い王、ダビデやソロモンのような勇敢な姿を浮かべていました。一方の主イエスは、弟子たちや民衆が思いつかない姿で、その御姿は受難予告によって示されました。

主の告知は、ペトロに代表される弟子たちの理解を正すためでした。主はここで御自分のことを**「人の子は」**と切り出します。ここで**「神の子」**とか**「メシア」・「キリスト」**とは言われませんでした。**「人の子」**という言葉をしっかり解説すれば、旧約以来の出来事を延々と語らなくてはなりません。エッセンスとしては、**“主は救い主たる御姿を告げようとされた時、「人の子」と言われた”**のです。

実に**“メシア・キリスト・救い主”**という三通りの表現であっても、イメージされることはかなり違います。もし弟子たちが抱いていたメシア像ならば、主イエスはその力をもってローマと戦い、その破壊力で新しい世界秩序を立て、しかも主の弟子たちは、彼の側近者として力を持ち、そのため彼らはこの世で一番の栄華を極める人生になったことでしょう。しかし実際、主がもたらす新しい神の秩序とは、メシアたる主ご自身が忌み嫌われ、そして呪われるとされた十字架に自ら歩み出て架けられることです。となれば弟子たちも、苦難の道を主イエスに従って歩むことになります。元来キリスト告白する者は、主なるイエスを愛し、信頼し、従って、生きる者となることですけれども、受け止め方によっては、無理解の弟子たちと同じようになってしまいます。そうなれば全く教会の教えから離れ、いつの間にかキリストがキリストでない信仰に陥ってしまいます。現代の信仰問題において、教会が教会としてあるために非常に大きな課題をもたらすことの引き金となっています。それ故に、主はペトロに対して、**「自分について来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。(23 節)」**と告げられたのです。受難予告と主の弟子としての歩みは、堅く結びついています。まことに**“十字架なくして救いなし、救いなくして命なし”**です。

ここで告げられた主の弟子のこの道は、大変厳しいものです。主の厳しい真理の言葉に出会いますと、求道者の大半はひるんでしまい、洗礼を受けることをあきらめ、**“私には出来ません。キリスト者は立派ですね、偉いですね。”**と言います。また信仰者でも、**“キリストが苦労を与えるとは聞いたこともない、苦労するなら信じない”**などと言ってくることもあります。細かく言えば、キリスト者とはキリスト教を信じているわけではありません。キリスト教ではなく、キリストそのものを信じているのですから、取り違えると信仰と倫理とを混同することになります。

主イエスは、まず**「わたしについて来たい者は、(23 節)」**と言われます。これは**“イエスを救い主・メシアとして告白する者は”**、となります。それも口先だけでの告白では済まないのです。**“主が歩まれた道を辿るように歩んで行く者”**です。それが**“キリストに倣う”**ということです。倫理道徳的に柔和で優しいだけ

では、聖書の１ページすら見ていないことになります。その歩みを敢えて言うならば、険しい山を登るとか、極寒の深い雪中を掻き分けて歩くとか、嵐の荒波を小舟で乗り越えてゆくような姿にもなります。それはまさに前途多難です。しかし状況を熟知した誰かが案内するか、アドヴァイスをしっかり受けて守り貫くならば話は別です。主が、**「わたしについて来たい者」**と言われたのは、ある覚悟をもってのことです。それも主が私たちに先立って道を指し示して、先に歩まれている。私たちは主の後ろ姿を見ながら、心を集中して主が歩まれた道を歩んでいくのです。

主の後についていく歩みは、**「自分を捨てる」**こととなります。これは何も自暴自棄に投げやりになれという意味はありません。むしろ**「キリストを知る前の古い自分を捨てる」**という意味です。更には**“自分の利益を追い、生き残りをかけて周囲を蹴散らかしていく生き方を捨てる”**ということです。世の中大半がそういう人たちで溢れていますが、だからとて、**“全てを捨てて独り身の隠遁生活をせよ”**という極端な話でもなく、**“主に従う”**ということが最大、最優先の目的です。でなければ隠者のような精神修養を目的に、かの仏教的な悟りを開くことが究極的な意味では最も大切な生き方だとなってしまいます。主が言われた**「自分を捨てる」**とは、主に従う為のものだということ、次の**「日々、自分の十字架を背負う(23 節)」**ことと重なります。またこの**「自分の十字架」**とは、自分の病気や苦しみなどを意味しません。よく耳にするのは、**“この病気は、私の十字架です”**とか、傷みや苦しみ、悩みを十字架に置き換える人が多くいますが、主が言われた**「自分の十字架」**とは、**“神の為、主イエスの為、そして隣人の為に自分が担う重荷”**です。それは苦難ではありません。愛の重荷です。それが**「自分の十字架」**です。主は御自身の精神供養の為に十字架の苦しみを担われたのではなく、私たちの、それも時と場所を越えた人々のためにも十字架の苦しみを進んでお受けになったということです。十字架は神の愛の故であることが大きな意味にあります。そしてここで**「日々」**と主は言われました。主は**“毎日の歩みの中で、愛の重荷を担いなさい”**と告げられたのです。これはあくまでも**「自分の十字架」**ですから、人と比べるものではなく自分が神によって召されて担う重荷、それは**「日々」**担うものです。信仰生活は日常の中で繰り返し神に応えてゆくべき仕方においてあり続けるもの、その中で愛の労苦をいとわない、その歩みが**“主に従っていく”**ということです。

キリスト告白する者は、『献身』、身を献げるという生き方をするようになるということです。以前にお話しましたように、献身は何も牧師の特権ではありません。神学生のためにあるものでもありません。確かにそれあっての牧師や神学生なのでしょうけれども、**「献げる」**という生き方は、実に信仰者一人ひとりがそうでなければ、**“キリストにあって生きる”**など滑稽な話になります。無意味です。そうなれば、キリストが自分の立場を正当化する道具となってしまうからです。キリスト、もしくはキリスト教, 教会を使って自分を正当化する、**“私は正しい者だ、神を信じている・神に従っている者だ”**、と言い広めているのと同じことになってしまいます。しかし、イエスをキリストと告白し、この方に従って歩もうとした時に、新しく生まれ変わらせる出来事へと導かれるものです。その出発が洗礼の時です。キリストを信じる前、大半は目に見える何かを求めていたものでしょう。具体的には色々あろうかと思いますが、多くの場合は、財産、富や地位、名誉、また家や家族、会社、学校、色んな意味で有名な、大きな、裕福な、そういういろんなものを求めていたかもしれません。そこで主と出会って、この世の富よりも、**“献げるという生き方”**へと変えられたはずです。これが**“十字架のイエス・キリストに従って生きる”**こととなります。何よりも、主ご自身が、私たちの罪の為、赦しの為、永遠の命を与える為に十字架の上でご自分の命を献げて下さったからに他なりません。だからこそ聖餐式の時に、**“主が命を捨てられたことを覚え”**と言ってパンが配られるということです。命を捨てなければ私たちのこの意味はないことになります。主が命を捨てられたからこそ、私たちがこうやって与えられている所にいるわけです。主が十字架において新たに切り開いてくださった道、それが**「献身」**ということです。牧師だけが献身者ではありません。神学生の特権でもありません。全てのキリスト者が、献身者だということです。この歩みは、決して歯を食いしばって、自分を何とかして捨てて、必死に歩むことでもありません。この献身の歩みは、日常の中でキリストと出会い、この方による罪の赦し、永遠の命を受ける者と既にされている喜びの中で、自分らしく献げていく、明るく楽しい歩みだということです。そこを取り違えているのが、現代社会に揉まれているキリスト者の痛み、破れであり、また教会の課題であるということです。また一人ひとりの宿題にもなってしまっているのが現実です。

そもそも礼拝は、限られた時間に神を拝するためだけに使う、神に対して自分と時間を献げることですから、共に献げる喜びの中で神の言葉に触れるものでしょう。しかし現実的に平然とした顔して礼拝に臨むことは困難なこの世です。様々に悩み苦しみ、不満や怒りの中で迎えること茶飯事です。それでもいいのです。取り繕って教会に来ても、何も解決されません。礼拝を献げる中で変えられ、また新たな志が与えられて教会から派遣されて行く、それが礼拝者、信仰者としての再生（ born again 再び生きる)です。となれば礼拝と無関係な時を過ごすと個々に抱えている問題が悪化することもあり、深みに陥って抜けられないこともあります。

しかし信仰者はそこで足止めされません。こうも言えます。主の十字架は十字架では終わらず復活へと続いていますから、主の十字架は復活の光に照らし出された十字架として輝きます。先の言葉ではありませんが、**“十字架なくして救いなし、復活なくして命なし”**です。私たちの献身の歩みも同じです。生くるに値しない者が生かされ、赦されざる者が赦される。この地上での信仰生活を貫く中で神の国へとつながっている歩みです。神の国の光に照らし出される新しい歩みです。主が私たち一人ひとりのために為して下さったあの十字架の御業を思い起こし、日々自分の十字架を背負い、祈りと讃美とをもって主の証し人として、これからも主に仕えて参りたいと心から願うものです。**祈りを献げます。**

憐れみ深き父なる御神さま、恵みの内に新たな時を増し加えてくださり感謝致します。しかしこれまで、多くの恵みに与りながらも、時にあなたが遠くに感じられることがあります。しかしどうか、主が共にいてくださると信ずる信仰により、これからも歩み続けられますように、御霊の御助けを願います。また主に召された所に従って、夫々が隣人に救いの恵みを証しする者とならせてください。

季節の変わり目にあるこの時、弱き魂を聖霊によって再び立ち上がらせてください。全てを御手に委ね、尊き主の聖名によって御前にお献げ致します。アーメン。

讃美歌:299「うつりゆく世にも」

献金・感謝・主の祈り(堀口恵美)

聖なる父なる御神さま、10 月第 2 の聖日、聖霊降臨節第 22 の主日、私たちを、全てを整えてくださって礼拝に集うことが許されました恵みを心より感謝申し上げます。

今日は鮎川先生を通してペトロの信仰告白について学びました。私たち、本当に弱い者でございますけれど、どうぞ、神のため、キリストのため、隣人のために、己の十字架を背負うことをあなたに赦されている者として歩むことの出来るものとさせてください。

世界中の平和のために祈ります。どうぞ、あなたの平和が遍く行き渡りますように。そして私どもが何をすべきかをあなたによって示され、今週もまた祈りつつ歩むことの出来るものとさせてください。

私たちは、あなたによって全て赦され、そして全てを与えられております。今、私たちの献身の徴として、ここに献げました物をどうぞあなたの御用のためにお使いください。

あなたが私たちに教えてくださいました**「主の祈り」**を皆と共に祈り、そしてこの一週間も力強く歩むことが出来るものとさせてください。**「主の祈り」…アーメン。**

派遣:**讃美歌 89「共にいてください」**

祝福：主イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき交わりが、ここから遣わされていくあなたがた一同と共に、今も後も永遠にあるように。アーメン。

報告:週報補遺 **①社会委員会：シリーズ講演「キリスト教シオニズムを考える～歴史・聖書・連帯～」案内 ②礼拝当番選定のためのアンケート調査への協力要請 ③チャリティー・コンサート券売手伝いのお願い 他。**

後奏:**「カンツォーナ」(G.フレスコバルディ)**